



APAY eNews

抄訳: 永岡美咲(日本YMCA同盟)

第31回 アドバンス・スタディーズ・プログラム(ASP)

2013年10月18日～31日

第31回アジア・太平洋YMCA同盟(APAY)アドバンス・スタディーズ・プログラムの修了夕食会が、11月29日に香港中華YMCAダイヤモンド・ルームで開催されました。

香港中華YMCAのCarl Lau 総主事が開会を宣言しました。香港中華YMCA会長の Cecil Chan 博士が修了者を前にとっても印象的なスピーチを行いました。Chan 博士は、アドバンス・スタディーの参加者に向けて、「人生の中で意義ある夢を持ち、その夢をかなえるための働きを始めてほしい。もしかしたら、その夢を実現するために大きな犠牲を払わなくてはならないかもしれず、成し遂げるために忍耐が必要となるかもしれない」というメッセージを伝えました。

会では、APAY 会長の Yau Chung Wan 氏、総主事の山田公平氏が、コース修了証を各参加者に授与しました。修了者は、式に出席された来賓にいきいきとしたスキットを披露しました。

参加者は、アジア・太平洋地域にあるバングラデシュ、中国、フィジー、香港、インド、日本、フィリピン、スリランカ、台湾の16のYMCAからのみならず、地域を越えてアフリカのガンビア、ヨーロッパのルーマニアからも来ました。

コースのカリキュラムは以下の通りです。(1)現在のYMCAミッション、(2)現代の神学と社会の反応やクリエイティブな礼拝に関する理解、(3)社会の現実とその分析、(4)地球市民育成、(5)ジェンダーに配慮した教育、(6)文脈上の反応—オルタナティブな反応のあり方、(7)文脈上の事実、影響と反応(エクスポーチャーと他団体訪問)、(8)変革を目指したユース・エンパワーメント、(9)YMCA運動—新しいトレンドと主眼点:リソース・モビライゼーション、よりよい組織運営、制度の見直し、(10)平和構築プログラム、(11)文脈上のプ

ログラム反応・プレゼンテーション。

Maggie Mathieson 氏、Lawrence Yik 博士、Hans Lutz 氏、Kung Lap-Yan 博士、Hope Antone 博士、Doris Lee 氏、Ron Coulombe 氏、Chuck Allison 氏、Max Edigar 氏、Beng Seng Chan 氏、Duncan Chowdhury 氏と山田公平総主事が第31回アドバンス・スタディーズのリソースパーソンでした。

カリキュラムの一環として、研修者がこのコースの後それぞれの持ち場に戻ったとき、所属YMCAが社会から必要とされている特定の分野にどのようにかかわっていくかのプランを準備し、発表する時間が持たれました。

アドバンス・スタディーズ・プログラムは1981年から始まったAPAYの特徴的なプログラムです。現在は、1か月のコースとなり、香港中華YMCAのウーカイシャYMCAユース・ビレッジにて毎年開催されています。これまで、33年間で402人が修了しました。

あたたかく献身的にお支えくださった香港中華YMCA、香港YMCA、リソースパーソン、研修参加者の皆様、APAY スタッフにお礼申し上げます。

総主事デスクより・・・

アジア・太平洋YMCA同盟 総主事 山田公平

第31回 APAY アドバンススタディが11月に香港で行われ、今回は16名が参加。中にはアフリカやヨーロッパからの参加者もいて、非常にグローバルで有意義な交流と学びができました。ここに簡単に参加者を紹介します。

今回は3人の同盟総主事が参加しました。一人は西アフリカのガンビアから、牧師でもある John Charles 同盟総主事、YMCAに入って1年足らずですが、エネルギーあふれるリーダーです。ルーマニアからは元弁護士の女性 Alina Pop 同盟総主事、そして久しぶりに APAY の活動に参加した南太平洋のフィジーの John Lee 総主事。みんなそれぞれ、国全体を代表する立場で他団体での経験もあります。この4週間で多くの学びと考え方へのチャレンジを受け、特にグロ

一バルな基準や方向性などが理解でき刺激になったと言っています。この経験と学びはこれからのYMCA運営にきつと役立つだろうと確信していました。

中国からは、上海の Ma さんと成都の Ting さん。中国のYMCAは最近、急激に進む都市化の影響で、YMCAのある都市人口が膨らみ、YMCAも急激に拡大しつつあります。特に文化教室や青少年関連の事業が必要とされ、また行政の福祉サービスも追いつかず、YMCAが受け皿となり、子ども、高齢者、障がい者へのサービスを提供するようになっています。今の課題は拡大するプログラム需要に質的に対応できるように職員やボランティアのトレーニングが一番の課題になりつつあるということです。

台湾からの二人は、台中の Jeremy さんと台南の Eric さん。台中YMCAでは台中市と協力して 2000 人以上の学生を抱えるコミュニティカレッジを運営しています。近年の若者の課題として挙げられるのがインターネット中毒、そして海外とのかかわりに無関心な層が若い人の間に広がり、心の国際化を求める動きが出始めているそうです。そのニーズに応じて、台中YMCAでは海外でのボランティア活動を事業として立ち上げ、年間 300 人の規模で開発途上国に送り出し、その数を数年で倍増する計画もあります。台南では、高校を中退する若者を対象に、雇用訓練と合わせて地球市民教育を行い、総合的な教育を展開しようとしています。どちらも国際化をプログラム化しようとしています。

フィリピンのサンパブロ市の Cristi 総主事は、YMCAでは職員 1 人ですが、彼女のエネルギッシュな人柄で、自分の夢を、YMCAの理事たちの夢にします。通常の事業はボランティアが主体になって活躍しています。ビジョンを明確にすると、多くの人たちが手伝ってくれると信じています。この研修でさらに大きなビジョンが浮かんできているということでこの先が楽しみです。

Hubert は、香港中華YMCAからの参加で、ソーシャルワーカーとして 20 年以上働いてきました。しかし、香港ではYMCAと同じようなソーシャルワーカーを中心とした活動団体が多くあり、競争が激しくなりつつあり、YMCAの特徴を打ち出し、生き残りを図る必要があります。その特徴は、ボランティアだと言います。もっと訓練をして、ボランティアがさら

にレベルアップできる環境をつくるのがこれからの課題だと言っています。

Biplob は、バングラデシュのビリシリYMCAの若い総主事です。若いながら、活発に発言し、今回の研修では新しい形の観光事業(オルタナティブ・ツーリズム)、地球市民教育、そして自らも関わっている宗教間対話を進める平和教育を実際に手がけて行きたいと言っています。

Chandrakumar は、スリランカ同盟スタッフで、今回の研修で幅広くYMCA理解につながったと言っています。この学びをいかにローカルYMCAに伝えていけるかが彼のチャレンジになります。研修の中では、地球市民教育、環境問題への取り組み、そしてスリランカに多くいる若い糖尿病患者へのプログラム開発などをこれからの課題にしています。

インドからは 2 人が参加しました。1 人は、南西リージョンの代表主事で Saiju さん。このリージョン(ケララ州)には、530の個別YMCAがある最大の地域。これらの大小YMCAの質を高めることが最大の課題。特にYMCAにおける女性と青年の理事者を増やすことが目標になっているそうです。George さんは、南インドのマドラス YMCA にある大きなセンターの主任主事。環境問題にも詳しく、これからは若い人たちが環境問題を学び、意識を高め、行動を起こす人たちの層を広げたいというビジョンを持っています。

最後に、今回日本からは 3 人の主事が参加しました。東京から小畑貴裕主事、20 年間ずっとホテル専門学校を担当してきて、今はその学校の校長。もう一人は横浜の専門学校を担当している奥藺一紀主事、彼もこの 20 年間YMCAでは専門学校を担当してきました。今回の研修で、YMCAのもつグローバルなつながりの強さと責任意識、そしてキリスト教へのコミットメントを強く感じたということで、これからの各学校での働き方に影響を与えられたと言っています。広島YMCAから来た林健太郎主事は、今回学び得た幅広い世界とのネットワークを活かし、これからのYMCA運動を変化させていくチェンジメーカーになって行きたいという抱負を持っています。

多くの学びと気づきを与えられた 4 週間でした。

みなさまにとり、良いクリスマスを、そして良いお年をお迎えてください。

第31回 アドバンス・スタディーズ・プログラム参加者



Biplob Rangsa
Birisiri YMCA
Bangladesh



Ma Zhaozhen
YMCA of Shanghai



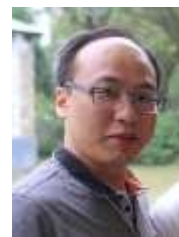
Dai Ting
Chengdu YMCA



John Lee
YMCA Fiji
Fiji



John Charles Njie
Gambia YMCA
Gambia



Shiu Yau Hung,
Herbert
Chinese YMCA of
Hong Kong



George
Bernandsha
Samuel
YMCA Madras
India



Saiju Varghese Joseph
YMCA South West India
Region
India



Kentaro Hayashi
Hiroshima YMCA
Japan



Takahiro Obata
Tokyo YMCA
Japan



Kazutoshi Okuzono
Yokohama YMCA
Japan



Cristeta
Sumague
YMCA of San
Pablo City
Philippines



Alina Violeta Pop
YMCA Romania
Federation
Romania



Chandrakumar
Sinnathurai
National Council of
YMCAs of Sri Lanka
Sri Lanka



Huang Yu-Chang,
Jeremy
Taichung YMCA



Li Jung-Tai, Eric
Tainan YMCA

総主事デスクより・・・

アジア・太平洋YMCA同盟 総主事 山田公平

中国 YMCA の近況—中国を訪問して

中国YMCA近代史

最初の都市YMCAは天津YMCAで、1885年創設。その後、上海(1900)、広州と北京(1909)、成都(1910)、武漢(1911)、アモイ、南京と同盟(1912)、そして来年100周年を迎える西安と杭州が1914年に創立されました。現在ある10の都市YMCAはすべて100年以上の歴史があります。1912年に同盟が結成されたとき、すでに25の都市YMCAと107の学生YMCAが存在していました。それがその10年後の1922年には都市YMCAが35箇所、学生YMCAは187の大学に広がっていたというのですから、当時のYMCA運動の伸びは著しいものだったと言えます。有名な孫文も、中国YMCAの創設者の一人で、彼の挨拶で、“Through YMCAs Jesus salvation is followed and Confucius good will is practiced”「YMCAを通して、イエスの救いがもたらされ、儒教による良い行いがもたらされますように」と言われたそうです。YMCA初期の段階の目標は、「字を読めない人に教育を、貧しい人々に職業訓練を、子どもと青年に健康教育を、そして自己中心の人々に公民教育を」というスローガンを掲げていたそうです。

1949年の共産党体制の樹立にともない、YMCA活動は制限されるようになり、何とか教育プログラムだけは維持できていましたが、1966年から79年までの文化大革命により、すべての活動を停止せざるを得ませんでした。その期間、すべての建物は他の目的に使われ、1980年代に入って初めて行政がYMCA活動の再開を認め、徐々に建物も返還されたということです。これはまだ他の都市でも交渉が進められているということです。

現在のYMCA運動

2012年6月、全国YMCA大会が60年ぶりに開催され、全国同盟の定款改正と新しく役員選挙が行われました。その結果、新たに15名の理事が選ばれ、すべてのYMCAを代表する形になりました。また、新たな同盟総主事として Tu Hanqiao 氏(元武漢YMCA総主事)が指名されました。

現在中国には、同盟の元に10の都市YMCAがあり、全国では、共通して4分野の活動展開を目指しています。それらは、1)教育、2)スポーツ、3)文化とレクリエーション、4)地域サービス事業です。これらの活動が、現在ある10都市YMCAがもつ、200以上のセンターで実施されているということです。

中国経済の急激な発展により、YMCAのあるような大都市でその変化は顕著です。経済発展は、人口の都市化をもたらし、ますます大都市における地域サービスや青少年プログラムの必要性が高まりました。そして、そのサービス提供をするに当たり、さまざまなNGOの活用を行政が求める動きにつながりました。この流れに多くのYMCAが乗りつつあり、行政所有の市民センターや青少年センターをYMCAが運営主体になって行きました。これらの中には、高齢者や障害者へのプログラムセンターも含まれます。このように急激に成長したYMCAの課題は、急増する施設運営をする人材の発掘と養成とYMCAのキリスト教団体としての特徴を出すことが求められるようになりました。

中国 YMCAの特徴

- 1)教会との関係が深いことで、トップリーダーが教会から派遣されたり、その逆があったりしています。
- 2)YWCA との関係も深く、同盟と4つの都市YMCAがYWCA と協働体制で運営をしています。(ビルや人材を共有したりしますが、理事会と総主事は別々に置いている)
- 3)多くのボランティアがYMCAの具体的な活動を支えています。同盟の統計では、全国に24,000人のボランティアが活躍しているそうです。
- 4)行政との協働プログラムが増えてきており、社会的なサービス提供をYMCAに任せられるようになりつつあるそうです。

最近の中国の社会問題

変化する中国社会でさまざまな社会問題が浮上しています。まず、“Y Generation” と呼ばれる一人っ子政策後に生まれた人たちですが、その世代が、結婚して親になっ

たとき、一人っ子として育てられてきた両親が、子育てに戸惑うことが多く発生しているそうです。チャイルドケアセンターでは親への教育を配慮しています。また、若者たちに関しては、職業訓練や起業訓練、社会人としての責任を自覚できるような教育の必要性も叫ばれています。さらに、深刻な問題として挙げられているのは、“left behind children with grand parents in rural communities” 「地方に両親から置き去りにされた子どもたち」ということです。大都市に高収入の仕事を求めて移住してくる夫婦が、上海だけでも500万人いるということです。彼らの多くは、子どもを祖父母に預けて地方から都会に移住しているのが現実です。そんな子どもたちが非行に走ったり、家出をしたりしており、中国各都市でも農村でもYMCAによるサービスが求められる様になりつつあるということです。特に子ども、ユースの活動センターや家庭教育センターのようなニーズに応じることがこれからのYMCAに求められています。YMCAも、それが中国におけるYMCAの使命であると自覚するようになったということです。

世界YMCA同盟より

1. 「百万人の声」調査プロジェクト

現在までに65の国・地域のYMCAが「百万人の声」プロジェクトに参加表明しました。アジア・太平洋地域では、オーストラリア、バングラデシュ、香港、インド、日本、韓国、マカオ、ニュージーランド、フィリピン、パキスタンおよびスリランカが、参加することになっています。この調査は、他の国々との比較することで、各国でユースのおかれた状況を理解するのに大きく貢献するものであると考えます。調査結果は2015年末に報告される予定です。性別と年齢(15歳～18歳・19歳～24歳)に考慮して、各国から2500人の回答を集めます。

2. 第18回世界YMCA大会

テーマは「ユースをエンパワーするYMCA(Empowering

Young People)」

・毎日2時間、20人の同じメンバーが集まり、YMCAとのかかわり、学びと共有、戦略計画立案、プレゼンテーションを行う4回のグループ・セッションを行います。

・世界YMCA同盟による50の学びのセッション

・これからのYMCA運動、YMCAの新たなイメージについてのアイデア、ビジョンをそれぞれのYMCAに持ち帰り、それを広めること。今後4年間でともに何を行うか理解すること。

・チェンジ・エージェントがグループ・セッションで役割を担うこと。

3. YMCAワールド・チャレンジ

2014年6月6日～8日は、YMCAワールド・チャレンジの日です。参加者全員からの署名を集めます。これまで42か国・地域のYMCAが参加表明をしました。

4. チェンジ・エージェント

世界YMCA同盟によってウェブ上のEラーニングが行われています。220人中195人のチェンジ・エージェントがプラハでのヨーロッパ・フェスティバルに参加しました。

フィリピン台風被災地からの報告

Eloisa Borreo

世界中で報道されているように、史上最強規模の台風30号(ハイエン)がフィリピン中部を直撃し、数千人の命が奪われ、家や家財道具を完全に破壊し、すべてとはいわないまでも主要な機関が壊滅状態に陥りました。

これに際し、フィリピンYMCAは、家を失い避難を余儀なくされている被災して苦しみの中にある多くの人々を支援するために募金とあたたかい言葉をかけてくださった皆様に厚くお礼を申し上げます。被災地に近いYMCAではセブ島北部やYMCAビレッジのあるオルモックや、タンペリザ、コンセプション、イロイロといった小さな島々にも支援物資を届けています。台風被害の数日後、私もセブ島北部の

ダーンバンタヤンで 2,000 パック以上の食糧を配布するスタッフ・チームに加わりました。そのパックには、コメ、缶詰、ペットボトルの水、衣類を入れました。

タクロバンやその近郊からは、家が完全に破壊されてしまった 80 人が避難し、セブYMCAに滞在していました。彼らには食事や衣類を提供し、けがを治療し、子どもたちにはトラウマ的な経験を克服するためのレクリエーション施設を紹介しました。他の緊急支援活動としては、イロイロYMCAがタンベリザ、コンセプション、イロイロで被災がひどかった 643 世帯に支援物資の配布をコーディネートしました。

また、YMCA緊急支援チームはレイテ島オルモックの 8 つの村で第 2 回支援物資配布を行うため、フェリーでセブ島を後にしました。彼らがレイテ島のオルモックYMCAに着いたとき、すでに被災者で混雑しており、多くの被災した方が荷下ろしをするのを手伝ってくれたとのことでした。食糧パックの配布は一日かけて 4 つの村で行われました。オルモックYMCAの近隣には家を失った家族や人々が一時的に避難できるようテントを張り、40 世帯には小屋の屋根代わりにとなるキャンパスの生地が配布されました。まだ多くの世帯に支援の手が届いておらず、引き続きの支援や助けを求めています。



フィリピンYMCA同盟総主事の Pablito Tabucol 氏は「災害支援グループ」の一員としての経験を今回の災害と関連付けています。破壊された家、機関、農場、コミュニティを見ると、YMCAではそれほど多くのことができず、ただ静寂の中で泣くしかないのです。子どもたち、子どもを抱えた母親、高齢者が路上に並んで食糧や水を求める姿を見るのも、とても心が痛むことだ、と彼は続けます。私たちは、倒壊した家から持ち出された家財道具に書かれた助けを求める言葉を見ました。Pablito は、助けを求めてプラカードを掲げて少年が道に立っていたのを見て思わず立ち止

まったという出会いについて思いをめぐらせます。食糧パックを手渡すとすぐ、少年の顔は輝き、大きな笑顔で感謝の言葉を述べたのでした。

このような災害時の人道的支援は、日々生きるにも絶望的な状況で苦しい状況の人たちにYMCAがすばやく、また効率よく命を助ける支援を行う多くの機会のうちのひとつにすぎません。各地また国際的なレベルで多くの協力的な支援があつてこそ、このような働きが可能になるのです。フィリピンYMCAは、各国YMCA、フィリピン国内や海外の各地のYMCA、そして所属YMCAを通してご支援くださった各個人の皆様に厚くお礼申し上げます。皆様も、祈りを通して皆様が与えられ、貢献し、続けてくださるあたたかい支援のように、「愛を感じ、経験する」ことができますよう、願い、またお祈りいたします。

フィリピンYMCAは、食料、水、緊急シェルターとしてのテントなどの緊急支援物資を調達するのに必要な約 80,000 ドルの予算計画を提示しました。すでに APAY には予算の約半分が寄せられました。現在は、各地のYMCA、各地のグループ、コミュニティとのつながりの中で持続可能な生活や糧を再建し、復興するための支援を提供する方向を見据えています。したがって、APAY はレイテ、イロイロ、セブで被災した多くの人々のニーズに応えるために募金キャンペーンを継続します。

フィリピンYMCAは、募金額に応じて、甚大な被害を受けたコミュニティ、家族、個々人のニーズに沿うよう支援を続けていきます。現地のYMCAスタッフ、ボランティア、政府機関と連携しながら、以下のことを計画しています。

- ・今後 3 か月の間に支援物資を配布し、ストレス軽減セッションを行う。
- ・今後 3 年の間に対象となるコミュニティにおいて、生計を立てるための支援、住居再建、防災、リスク回避等重要分野の復興支援プログラムを準備し、実施する。
- ・特に子どもや若者といった被災者や避難者をYMCAのプログラムに招待するなどして、感情的な苦痛を取り除き、精神の回復や癒しとなるようなトラウマケアを行う。

コーディネーションを行うセブとイロイロの 2 つのYMCAの他にも、フィリピン各地YMCAが直接、物資の配布やボ

ランティア派遣などを行い、救援復興活動を行っています。フィリピンYMCA同盟委員会により結成された台風被災地対策本部は、被災したコミュニティーのニーズに基づき、モニタリング・システムを含む全体の方向性や計画をゆだねています。

リソース・モビリゼーション研修(ミャンマー、タイ) Eroisa Borreo

7か国目となるリソース・モビリゼーション研修(1年目)がタイ・チェンマイで11月21日~24日に開催され、ミャンマーからの8人の参加者を含め、タイ・バンコクとチェンマイから合計30人が参加しました。カナダ・エドモントンのボランティア・コンサルタント Ron Coulombe 氏とアメリカ・セントルイスYMCAの Renee Godinez 氏がワークショップを進めました。



タイとミャンマーのYMCAは、アジア地域の他の地域と同様、「通常どおり」で「伝統的」なファンドレイジングを行っていました。しかし、コンサルタントからリソース・モビリゼーションの原理やコンセプトを学んでから、現在行われているプログラムにも地元の支援者からの継続的な助けや支援をいただくアプローチやテクニックを磨くことができると参加者は気づきました。

グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク (GATN) ワークショップ Chan Beng Seng

GATNの国ごとの研修ワークショップが10月24日~25日にマレーシア・クアラルンプールで、10月27日~29日

でインドネシア・ジョグジャカルタで開催されました。この研修の大きな目的は、オルタナティブ・ツーリズム・プログラムを始めたいと考えている各地のYMCAで基礎的な研修を行い、その勢いをつけることでした。Juanito Bacani 氏と Chan Beng Seng 氏が担当しました。クアラルンプールでのセッションには、クアラルンプール、ペナン、スンガイ・ペタニ、イポーのYMCAから15人が参加しました。ベトナムYMCAのスタッフ2人も加わりました。ジョグジャカルタ・セッションには、メダン、ジョグジャカルタ、スラバヤ、サラティガの各YMCAと、インドネシアYMCA同盟から12人と、東ティモールYMCA総主事の Oracio Mendes 氏が参加しました。

ワークショップでは、マス・ツーリズム(大衆的観光)の現状、オルタナティブ・ツーリズムの原理と必要性、オルタナティブ・ツーリズムにある指標となる原則、各地のYMCAがどのようにオルタナティブ・ツーリズムを開始できるか基礎的なガイドラインの概要について扱われました。さらにオルタナティブ・ツーリズムがどれくらい各地のYMCAの運動強化や地球市民育成、収入創出に効果的なプログラムであるかについて学びました。

最も興味深いプログラムとなったのは、半日のフィールド・エクスポージャーでした。クアラルンプールでは、クアラ・セランゴールのネイチャー・パーク(自然公園)とファイヤーフライ・パーク・リゾート(蛍の公園)をエコロジカルをテーマに訪れました。ネイチャー・パークは、さまざまな種類の動植物の楽園で、200ヘクタールの海岸のほとんどはマングローブの沼地となっています。そこでは、たくさんの環境に関する教育プログラムが行われています。

ジョグジャカルタでは、地元で「Pesantren (Pesantren)」と呼ばれるイスラム学校、仏教の瞑想センター、インドネシアで初の先住民キリスト教会を訪問しました。参加者は、それぞれの組織のリーダーと宗教間のハーモニーに関する問題について話し合う機会を得ました。

各プログラムやワークショップから学んだことを活用し、参加者はグループごとに、それぞれのYMCAで実現しうるオルタナティブ・ツーリズムを見出そうとしました。

各地のYMCAがマス・ツーリズムのネガティブな影響に対応するには、各国YMCAやサブ・リージョンのレベルでさらに、以下のような原則を掲げるオルタナティブ・ツーリズムのトレーニング・ワークショップを行う必要があると感じられました。

- C (community-centered) 訪問するコミュニティーの現実にふれ、エンパワーする
- H (holistic) 文化の豊かさ、工夫などその地の知恵を学ぶ
- A (advocating Global Citizenship and Global Networking)

正義や人権など考えお互いが関係していることを学ぶ
N (nature sensitive)
環境に責任ある行動をとる
G (gender and child sensitive)
女性や子どもの人権、搾取的な行動に注意を払う
E (economically viable and productive)
観光をとおして利益が得られ、その利益が地元に戻元するように工夫する

クアラルンプールでのワークショップの最後には、参加者がクアラルンプールYMCA108周年式典に招待されました。夕食会のハイライトは、YMCAデフ・クラブ(聴覚障がい者のクラブ)の若者による15分間のドラマの演奏でした。

ジョグジャカルタでは、前インドネシアYMCA同盟会長のSupardan氏がワークショップのために彼の家に招待してくださいました。彼は、YMCAやエキュメニカル運動について食事をしながら語ってくださいました。

APAYは、クアラルンプールYMCA、ジョグジャカルタYMCAおよびマレーシアとインドネシアの両YMCA同盟に研修受け入れのお礼を申し上げます。



カンボジア PSG 会議

Richard Kaing

10月12日～13日、カンボジアYMCAのPSG会議がプノンペンで開催されました。この会議では、過去3年間の戦略計画について評価がされました。評価を行った出席者からの提案に基づき、カンボジアYMCAは2014年～2016年の3か年戦略計画を立案しました。新たな計画では、第2期としてストリート・チルドレンのプログラムやコミュニティ開発、ユース育成をさらに重点的に行うことに主眼点が置かれています。

カンボジアのパートナー・サポート・グループは、第17回世界YMCA大会(香港)で結成されました。これまで3年間、アメリカ、日本、香港、シンガポール、オーストラリアのYMCAとYケア・インターナショナルが、寄附によってカンボジアYMCAを支えてきました。

会議のなかで、2014年度の財政支援について、日本のYMCA、香港YMCA同盟、シンガポールYMCA、オ

ーストラリア・パースYMCA、アメリカYMCA同盟、ニュージーランド・ネルソンYMCA、アメリカ・ロングビーチYMCAとYケア・インターナショナルから申し出がありました。Yケア・インターナショナルとロングビーチYMCAは、ストリート・チルドレンに重点を置くことにしています。結果的に、PSGメンバーのYMCAが予算の70%の寄附を申し出、カンボジアYMCAが30%を集めることになりました。

YMCA職員対象 基礎研修(インドネシア)

Richard Kaing

APAYのYMCA運動強化の一環として、11月4日～7日、インドネシアYMCA同盟が職員研修をマカッサルで開催しました。メダン、ジョグジャカルタ、サラティガ、マカッサルのYMCAから若手スタッフや主事が16人参加しました。

研修内容は、YMCAとそのミッション理解、役員やスタッフの役割と責任、財政と予算計画、プロジェクト・プロポーザルの書き方、ユース育成、半日のエクスポージャーを含むオルタナティブ・ツーリズムについてでした。

研修後、4人の参加者に感想や学んだことを尋ねました。

参加者 A さん

私はマカッサルYMCA所属で、今回、受入YMCAとしての責任がありました。残念ながら全部のセッションに参加することができませんでしたが、できるだけ多くの機会を活かしてきました。小さなYMCAでは、きちんと考慮されていない予算計画も執行しなければならないことがあります。私にとってよい情報を得る機会となりました。

参加者 B さん

すべての科目がよかったのですが、YMCAの使命と歴史のセッションが特によかったと思います。昨年YMCAに入ったばかりなので、研修科目は初めて触れるものばかりでした。YMCAは、コミュニティーに奉仕するために、さらに現代に即していなければならないと思いました。この研修後、私のYMCAが変わり、若者に奉仕するために改善していければと思います。

参加者 C さん

私は所属YMCAで周縁化された子どもたちを支援したいと思っていますが、理事会がYMCAのイメージを損なうのではないかとおそれています。しかし、今、研修を終え、YMCAはさらに機会が少なく、弱い立場の子どもたちのそばにいたいと思ひました。これからさらによい働きがしたいと思っています。

参加者 D さん

この研修で学んだことは、新しいことばかりでした。この学びから得た知見を、特に私のYMCAのコミュニティーをベースにした活動やコミュニティーに奉仕するためのファンドレイジングのために持ち帰りたいと思います。また近い将来、もっと学びを得たいと思います。

YMCAグリーン・チャレンジ(続報)

Roger Peiris

10月18日～31日に開催されたYMCグリーン・チャレンジは、YMCA内外から20,000人が参加しました。私たちは、地球市民として身の回りの自然を大切に、次の世代へと受け継ぐ必要があるのです。研修を受けた各国のチェンジ・エージェントがコミュニティーでできることを実践しました。

イベントの目的は以下の3点でした。

- 1. YMCAとワイズメンズクラブに「YMCAグリーン・チャレンジ」の日を周知すること。
- 2. ユースが環境の問題に参画すること。
- 3. 近隣のYMCAとワイズメンズクラブの新たな協力関係を築くこと。

今回、15の国・地域にある60のYMCAにおいて、16のワイズメンズクラブ、20,000人が参加しました。バングラデシュ(12拠点)、カンボジア、香港、インド(11拠点)、インドネシア(2拠点)、日本(13拠点)、マレーシア(2拠点)、マカオ、パキスタン、フィリピン(4拠点)、スリランカ(6拠点)、ニュージーランド、東ティモール、ベトナム、モンゴルでイベントが行われました。

バングラデシュ・サバル(Savar)YMCA



バングラデシュ・サバルYMCAでは、5つのイベントを企画しました。サイクル・ラリー、絵の発表会、絵画コンクール、セミナー、植林を行いました。

600人がYMCA内外から参加しました。

日本・横浜YMCA

チャリティランの際、ゴミの量削減とゴミの分別に参加者、ボランティア、スタッフ等総勢1000人以上で行いました。



香港中華YMCA 平和文化キャンペーン

Roger Peiris

ユネスコ(UNESCO)の提唱する「平和文化(culture of peace)」に呼応し、一般の人々が愛を通して壁を乗り越え、平和な世界をつくる目的で、香港中華YMCAは2007年に「平和文化キャンペーン」を立ち上げました。

今年は、スローガンを「平和のための太鼓」とし、多くの香港市民が集い、太鼓をたたくことを通じて社会のハーモニーを謳い、ポジティブなエネルギーを社会に脈打つことが目的で行われました。イベントはYMCAピース・デーである11月2日にビクトリア・ハーバーで行われ、「平和のリズム」を奏でる大きな「太鼓の輪」を作り、500人以上が参加しました。太鼓の他には、多文化コーナーが設けられ、来場者が工作やヘナ・タトゥー、フェイス・ペインティングを体験しました。

香港中華YMCAは今後も、「平和のための太鼓」を通して、世界を平和に広め続けたいと考えています。



発行元
アジア・太平洋YMCA同盟
Asia and Pacific Alliance of YMCAs
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail: office@asiapacificYMCA.org